

## 平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	東海大学				
取 組 名 称	体験型実習を基盤とする海洋環境教育の実践				
取組学部等	海洋学部				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A21131	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	環境教育				
キーワード	「海洋環境士」、問題発見解決型教育、文理融合教育、市民対象の体験型環境学習				

### <選定理由>

本取組は、21世紀における地球環境問題を解決する上において海洋環境の理解と保全が重要であるため、海洋環境問題を総合的に取り組むことができる人材を養成することを目的としたプログラムであり評価できる。特に海洋のことを知るため学部共通必修科目として「海洋実習」を課しており、教員・学生が一体となった洋上体験による問題発見解決型教育・文理融合教育を通じ、実体験による意識の変革を行っていることは評価できる。本プログラムでは、これらの基本的な実習に加え特定科目を修得することにより、大学独自の資格として「海洋環境士」を与えることとしている。

「海洋環境士」育成のプログラムは周辺地域の自治体等と連携しており、学生が地域の活動に参加することにより、学生の環境問題に対する視点の確立、地域活動に参加する中高生に対する理科教育・環境教育への導入を実現しており、学生の学びの視点を形成する上で有効といえる。「海洋環境士」の資格審査においては国家資格である「技術士補」に近い審査基準での評価を行い、学生のモチベーションと知識のレベルを高めるために寄与しているプログラムである。

本取組は「資格」の取得を主目的にするばかりではなく、多くの学生が実際に海出て、「海を知り」、「海を守り」、「海の持続的可能な利用」を目指すことができる、「実際に海を知っている学生」を多数輩出するものとして持続的に行われることも必要である。

取組の概要【1 ページ以内】

21世紀における地球・人類にとっての最大の課題は地球環境問題であり、この解決には海洋環境の理解と保全が重要であることは明白である。「海を知り」、「海を守り」、そして「海の持続可能な利用」を推進するためには、狭小的学問分野からのアプローチでは不可能であり、総合的・学際的なアプローチによる人材育成を促進することが、昨年施行された海洋基本法でも謳われている。

本学海洋学部は、人類がこうした地球環境問題に直面することをいち早く予測した本学創立者が、その解決の道として地球表面積の約7割を覆う海洋に着目し、総合学部として昭和37年に開設された。設立以来、本学における建学の理念の下、学部共通の必修科目「海洋実習」を主として教員・学生が一体となった洋上体験による問題発見解決型教育・文理融合教育を通じて一貫した地球環境教育を行ってきた。一方、地球環境問題に対する実体験による意識の喚起を目的として、学生が地域社会と連携した社会教育活動が成されてきた。

本取組では、これらの活動をベースに、海洋に対する総合的な知識に根ざし、「技術士補」の知識・技術レベルで海洋環境の総合評価・調査計画および実施が可能であり、持続可能な社会に貢献できる人材に対して「海洋環境士」という独自資格を認定する教育プログラムを展開する。とくに周辺地域の自治体等との連携による社会教育活動へ参加し、それらの活動を体系的に進めることを通して、地球環境問題への意識向上を図っていく。さらに、隣接する社会教育センターと連携し、中高生の理科離れへの対応も視野に入れた市民対象の体験型環境学習を実施していく。

持続可能な社会を構築するための環境意識を持つ人材育成の枠組

